

活動内容報告書

団体名		特定非営利活動法人 こども家庭リソースセンター沖縄				
直近3か月活動報告	令和5年 7月 日	「ていーだチケット」	8件	141枚	84,600円	
	令和5年 8月 日		9件	132枚	79,200円	
	令和5年 9月 日		12件	143枚	85,800円	

活動風景の写真などを添付してください

今年度も継続して温かいご寄付を頂き感謝申し上げます。皆様からのご寄付は今年度も「ていーだ基金」活動の財源として活用させて頂いております。「ていーだ基金」はファミリーサポートセンター事業（相互援助型子育て支援／有償）の仕組みで、サポート料が支払いできない世帯に対し1枚／600円のチケットを発行（最大20枚）しサポート料の支払いに使える仕組み。

ファミサポ（子育て援助活動支援事業）の基本

【基本事項】

1 会員制

- （依頼）おねがい会員 センター来所（基本）
特別事情ある方は訪問登録可（仕組み説明後入会）
- （提供）まかせて会員（講習会受講後、入会）
- （両方）どっちも会員（ " " ）

2 個別支援1対1（基本）集団預かりではない

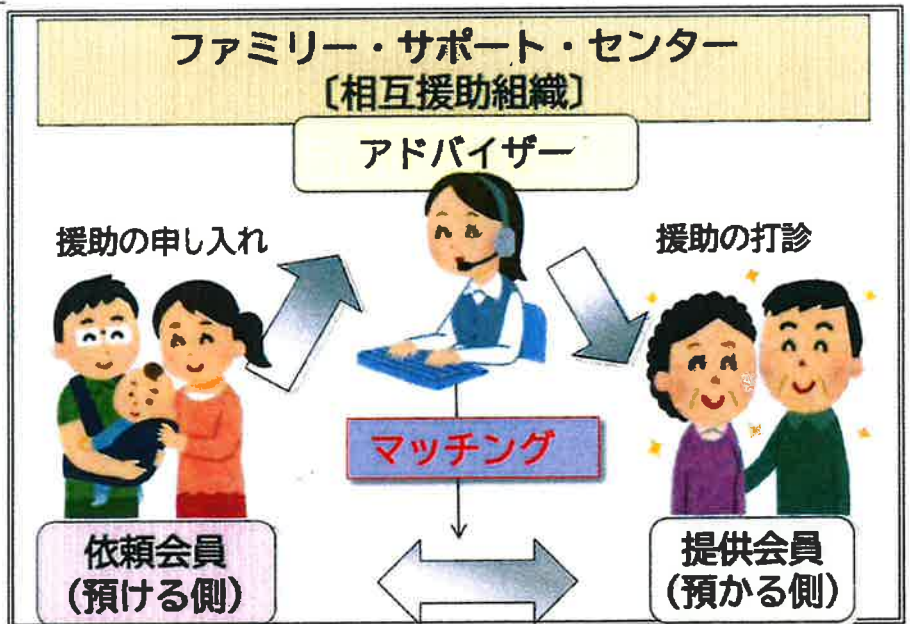
3 有償ボランティア（謝礼金基準1H600～700円）

4 【特色】

- 会員宅預かり（基本）
- 保育園幼稚園学童他定型の子育て支援を補う仕組み
- 担い手は地域の人々

【依頼内容】 ⇒多岐に亘る

早朝・夜間の預かり、送迎・乳幼児預かり
一時預かり・土日祝日預かり・病後児預かり・宿泊・出産時の兄弟の預かり他



ひとり親、生活保護、障がい（利用者本人、子ども）、多子世帯など、様々な理由で支払いができない世帯へ「ていーだチケット」を発行しサポート料金として支払いに充てる

コメント

生活困窮世帯を地域の大人が担う事で、社会と繋がり（虐待の未然防止）孤立せずに子どもの健やかな成長を見守ることができ。事業の必要性を実感する一方で、沖縄県全体の課題として子育て支援・仕組みの隙間が多く取組が弱い。活動依頼内容で長時間、長期間、多子世帯、緊急依頼などファミサポ事業だけでは担いきれない現状にある。限定的な公的資金でできない部分をNPOとしてできる取組で子育て応援事業として独自の「ていーだ基金」を継続運営している。

県内初「ファミサポ」20周年 沖縄市

【沖縄】地域住民同士で登録し、子の一時預かりを担う「ファミリーサポートセンター」事業で、県内で最初に開設された沖縄市ファミリーサポートセンターの創立20周年記念式典が7月29日、市福祉文化プラザで開催された。年間の活動件数が2003年度の2990件からピーク時の19年には1万810件と3倍以上に増えたことなどを報告した。コロナ禍で20、21年度は活動が減少したが、現在は回復傾向にある。

活動 19年に1万件超える

式典にはファミサポの支援者や利用者、設置主体である市の

沖縄市ファミリーサポートセンターの活動件数の推移



関係者ら約100人が参加した。20年間の活動をスライドショーなどで振り返りながら、支援した家庭の子どもが学生や社会人として立派に育ったことなどを報告した。これまでの活動に貢献したサポーターやアドバイザーら23人に感謝状も贈呈した。運営するNPO法人子ども家庭リソースセンターの奥座初美センター長は「沖縄市の初めの



沖縄市ファミリーサポートセンターの20周年式典で、長年の活動などで感謝状を受ける人たち＝7月29日、沖縄市福祉文化プラザ

一歩から県内各地に広がり、喜びの多い事業として認識されるようになった」とあいさつした。桑江朝千夫沖縄市長は「20年を迎えることができたのは皆さまのたゆまぬ努力のおかげだ。

『まかせて会員（支援会員）』の不足が問題となっているが、多くの方々から支援を受けられるよう、体制を整えていきたい」と話した。

(島袋良太)